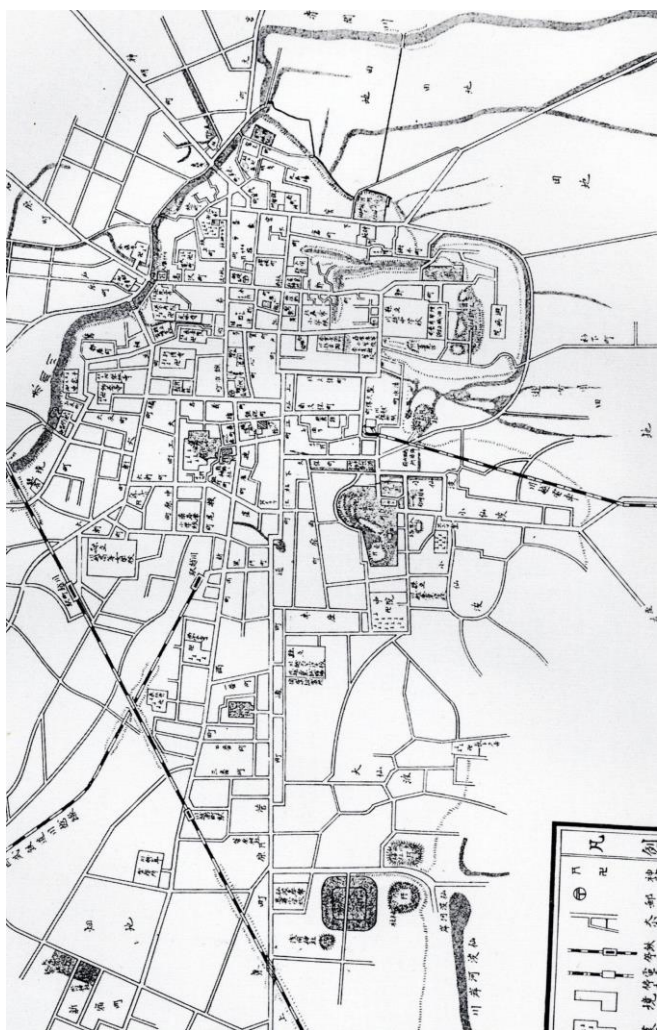


新河岸川のあらまし（5）

舟運時代～昭和初期の新河岸川上流

新河岸駅から東へ10分ほど歩いて新河岸川に出たところが旭橋で、その右岸が川越五河岸の中心となった新河岸の場所。舟運が始まったころは、北東方向の伊佐沼から流れてきた川がこの場所で台地に接し南に向きを変えていました。その後、台地に沿って新河岸から北に川を掘り広げ扇河岸を開設。明治12年には、さらに北に掘り進め仙波河岸を開設しました。以上は前号で扱ったところです。

下の左側の地図（大正13年）を見ると、右下に仙波河岸があり、そこから南側に向かって川が流れ出しているのがわかります。川の傍らには仙波河岸川と書いてありますが、これが当時の新河岸川の最上流にあたります。



最新川越市全図 大正13（1924）年より

新河岸川と赤間川の接続

右側の地図（昭和16年）を見ると、仙波河岸から北に向かって川が延び、市街地の西側から北側に向かって流れていた別の川『赤間川』に接続されています。この部分は1934（昭和9）年に開削された川で、以後、新河岸川には赤間川の水が流れるようになりましたが、当時はこの新川は新赤間川と呼ばれました。

赤間川は江戸時代に開削された農業用水で、入間川の笹井堰で取水され、入間市・狭山市・川越市と流れ、最後は川越市街地東方の伊佐沼に流れ込んでいました。新川開削により用水が流れなくなった地域のため、1938（昭和13）年に接続部分に田谷堰と3本の取水口がつけられました。（表紙参照）（天田 眞）



川越市全図 昭和16（1941）年より

町割りから都市計画へ ～絵地図で見る川越の都市形成史～ （川越市立博物館企画展図録）より